

入試年度	2026年度入試	研究科	商学研究科
課程	修士課程	コース	中小企業経営管理コース
入試期	1期	入試方式	全入試区分
研究分野(演習科目名)	中小企業経営管理		
出題意図及び解答又は解答例 ※試験問題自体を公開しない場合はその理由			
出題問題	今日の経済構造における中小企業者あるいは小規模企業者の役割について論述せよ。		
出題意図	1.中小企業経営管理に関する理解の確認:受験者が中小企業・小規模事業者の定義や法的枠組み(中小企業基本法)を理解しているかを問う。経済全体における中小企業の比重や意義を把握しているかを評価する。 2.経済・地域・社会との関連性を理解しているかの確認:雇用創出や地域経済への貢献、社会的役割の理解を問う。中小企業の多面的役割(サプライチェーン・技術革新・地域社会貢献など)を整理できる能力を評価する。 3.論述力・整理力の評価:論理的に情報を整理し、経済学・経営学的視点から論述できるか。単なる知識羅列ではなく、因果関係や役割の重要性を明確に述べられるかを見極める。 4.応用的視点の確認:現代の経済構造やグローバル化、デジタル化の影響を踏まえた分析力を評価する。持続可能な経済構造における中小企業の意義を理解し、批判的・総合的に述べられるかを確認する。		
解答又は解答例	本問題は論述式の筆記試験問題であり、解答は一義的でないため、以下に、採点時の基準や観点等を示している。採点にあたっては、以下の点を総合的に評価する。 1. 経済全体における存在意義 中小企業・小規模事業者は、我が国の経済構造の基盤を支える重要な存在である。中小企業基本法によれば、中小企業は製造業、卸売業、サービス業等において一定の資本金・従業員規模を有する企業を指す。日本の企業数の約99%、雇用の約70%を中小企業が占めることから、その経済的存在意義は非常に大きい。 2. 雇用の創出と地域経済への貢献 中小企業・小規模事業者は地域密着型の事業活動を行い、地域経済に不可欠な雇用を創出している。特に、地方都市や中小都市においては、大企業の進出が限定的であるため、中小企業が地域住民の雇用と所得の確保に直接貢献する。これにより、地域経済の安定化、人口流出防止、地域コミュニティの維持にもつながる。 3. イノベーションと産業多様性の担い手 中小企業はその規模の柔軟性と意思決定の迅速性を活かし、大企業が対応しにくいニッチ市場や新技術の開発に取り組むことが多い。スタートアップ企業やベンチャー企業も含め、産業構造の多様化や技術革新の担い手としての役割がある。これにより、経済全体の競争力の維持・向上に寄与する。 4. サプライチェーン・生産ネットワークへの重要性 中小企業は多くの場合、大企業の下請け・協力企業としてサプライチェーンに組み込まれており、製造業・サービス業の生産ネットワークの安定運営に不可欠である。特に、高度専門化された部品・サービスを提供する企業は、大企業単独では成立しない生産体制の構築を可能にする。 5. 社会的機能と地域コミュニティへの貢献 中小企業は、単に経済活動を行うだけでなく、地域コミュニティとの密接な関係を通じて社会的機能も果たす。地元資源の活用や地域イベントへの参加、地域産業の支援を通じて、社会的価値を創出することが多い。 6. 持続可能な経済構造への貢献 近年のグローバル化やデジタル化の進展の中で、大企業だけに依存する経済構造のリスクが認識されつつある。中小企業・小規模事業者は経済の多層的・分散型構造を支えることで、経済全体の柔軟性と回復力を高める役割を果たしている。 まとめ 中小企業・小規模事業者は、雇用創出、地域経済支援、技術革新、サプライチェーンの維持、社会的貢献、経済構造の安定化など、多面的な役割を担っている。現代の経済構造において、単なる補完的存在ではなく、経済の持続可能性や競争力の源泉として不可欠な存在である。		